

本部委員会の審議内容

第5回 利用促進委員会 (R3.1.20~1.29)

令和2年度第5回利用促進委員会は、新型コロナウイルス感染拡大による政府の緊急事態宣言を受けて書面による開催となった。今回はアンケート調査結果の概要(一部抜粋)を紹介する。

1. 調査結果の概要

(1) 鉄道コンテナ輸送に対する期待(荷主企業)

① 輸送障害への対応などに関する要望

- ・「安定供給」の一助として、安全で確実な輸送にご協力頂きたい。
- ・自然災害に強い鉄道コンテナ輸送をお願いしたい。
- ・輸送中、災害運休により輸送が滞り、希望納期通り輸送できないケースが毎年のように発生している。こういったリスクがあるため、コンテナ輸送への切り替えを躊躇している納品先もある。近年の状況を鑑み、災害が発生してからではなく、リスク回避のため代替方法などを明確にして頂けると利用しやすい。
- ・天候や事故等での遅延が多く、ホームページで「現在の輸送状況」を確認しているがわかりにくく、情報が遅い。
- ・特に災害発生時の運行状況の決定が遅いので、当日の業務に支障がある。
- ・豪雨や台風シーズンでは、空コン、積載マン(満載)の輸送動向に関する適切な情報提供に努めてほしい。

② 輸送力・輸送枠に関する要望

- ・輸送枠が不足しており、希望する能力に達していない。輸送枠の拡大並びに運行時間の短縮をご検討頂けるようお願い申し上げます。
- ・輸送枠が年間通して取り難い地区(駅)があり、輸送枠・指定枠・フリー枠等含めて検討頂きたい。

③ 各種コストに関する要望

- ・ドライバー不足が深刻化しており、モーダルシフトへの需要が高まってきているが、コスト面ではまだトラック輸送との開きがあり、切り替えに踏み出せない部分もある。また、以前、陸送能力強化の話があったが、現実的には陸送による臨時対応はほぼ行われていないようであり、梅雨や台風シーズンでの利用に不安を感じる。近年は特に、大雨被害が頻発しているため、インフラ整備、輸送能力強化がいつそう求められる。
- ・近距離、中距離の利用でもコストメリットが出るように料金体系を構築していただきたい。

④ 輸送品質や養生材などに関する要望

- ・輸送時の揺れ軽減対策を行ってほしい。
- ・レール輸送中の振動軽減ができれば、コンテナ内荷崩れや擦れがかなり解消できると思う。
- ・荷傷発生が非常に多い。中継地での取り扱い、良質なコンテナの提供について改善をお願いしたい。
- ・コンテナ内の製品の荷ズレや荷崩れが多いので、特にターミナルでの荷扱いを注意してほしい。荷崩れ、荷ズレが軽減できるコンテナの開発も検討してほしい。
- ・ソーラーパネルなど、振動に対して比較的強くない製品等の輸送を検討しているところであるが、そうした輸送への対応をお願いしたい。

⑤ コンテナに関する要望

- ・20ft、20形式(背高)タイプについては、今後汎用コンテナとして多く使用される予定だが、現在、高さ制限のあるお客様もあり、輸送への制限が発生することが懸念される。
- ・三方向開くコンテナがあれば、いっそう作業効率が良くな

り、安全面でも良い。

- ・軽量コンテナや換気が今以上に良い通風コンテナがあれば、さらに利用個数を増やせると考えている。
 - ・青果物輸送において、トラックによる長距離輸送ができなくなっており、大きな課題となっている。早急に冷蔵コンテナの活用整備をして頂きたい。
 - ・緩衝材を用いることのないコンテナの提供(緩衝材を返送する費用、保管料が発生している)。
 - ・レール上の振動性の緩和の観点から、クッション性の優れたコンテナを希望する。
 - ・12ftコンテナの積載量が5トンよりも拡大して頂ければ、さらに利用拡大となる。
- #### ⑥ リードタイム、延着などに関する要望
- ・リードタイムの短縮(特に東北、中部地区)をお願いしたい。
 - ・リードタイムの短縮と駅内の土地活用(コンテナ置き場の増)を切に願う。
- #### ⑦ 長期連休時における対応に関する要望
- ・ダイヤの都合で仕方ないと思うが、GW、お盆、正月など連休が多く、出発から着店までの日数がかかるので、少し難点になる事がある。
 - ・長期連休前の連休期間を短縮してほしい。
 - ・GWやお盆等長期休暇時にも稼働して頂きたい。
 - ・連休時の代替輸送に関する補償(料金、代替手段の手当て)。
- #### ⑧ 施設面に関する要望
- ・異常気象で大雨による浸水事故が再発しないよう、貨物駅の浸水対策を実施していただきたい。
 - ・駅と倉庫の複合施設の利用を検討したい。
 - ・大都市圏において、着地上屋倉庫を活用した中継輸送を幅広く行いたい。
 - ・配達先への配達までの間に、日中屋外に置いていると、コンテナ内の温度が上昇してしまうため、屋根つきのヤードでの保管をお願いしたい。

(2) 鉄道コンテナ輸送に対する期待(物流事業者)

① 各種コストに関する要望

- ・空回送運賃の現状維持。
- ・柔軟性のある鉄道運賃の設定。

② 輸送品質や養生材などに関する要望

- ・パレット貨物の荷崩れや荷擦れを防止するコンテナがほしい(トラックのように、ラッシングレール装備等)。
- ・パレット、ラッシング、エアバック等、パレット輸送に関わる資材の共有化。
- ・リフトマン教育など地道な取り組みを進められているのは大変ありがたく感じている。残念ながら、最近車輪変形による輸送振動が発生しているのを見かけるので、設備メンテナンスの状況が良く分からないが、自助努力による品質向上、ブランド向上を引き続きお願いすると共に、運送利用者への品質向上の取組PRも業界紙を通じてお願いしたく思う。

③ コンテナに関する要望

- ・鉄道コンテナの高さや重さの問題がある。コキ100形の低床貨車が導入され、レール上の輸送はできるが、道路交通法の関係で、背高コンテナを陸送できない場合がある。また2個積み車両は最大14,500kgの車両しか法令で製造できない。高さも低い車両が法令上作成できない。
- ・低床大型車での運用を拡大するために、自重の軽い(3~4トン)31ftコンテナを開発してほしい。

令和2年度第5回輸送品質向上委員会は利用促進委員会と同様に、新型コロナウイルスの感染拡大による政府の緊急事態宣言を受け書面にての開催となった。

年間テーマ「鉄道コンテナの輸送品質向上に向けた貨物事故防止対策に関する調査研究と提案Ⅱ」—ヒアリング調査の結果報告および自由意見、まとめ—について審議された。調査目的に関しては9月号(P3)に記載のとおりであり、また12月号(P4)ではヒアリング調査の概要等や一部紹介を行った。今号においてはヒアリング結果から「自由意見」「まとめ」について一部抜粋して紹介する。

1. 自由意見

(1) 防振コンテナ、防振資材の必要性について

- ・振動が原因と考えられる荷擦れ事故防止には有効であると思われる。(5件)
- ・自動車部品や精密機械などの輸送では必要と思われる、新規輸送の獲得も期待できる。(3件)
- ・作業時間の短縮やコスト面でメリットがあるなら使用してみたい。
- ・コンテナ内貨物の揺動防止に有効であると思われる。

(2) 輸送品質向上に向けての独自の取り組みについて

- ・定期的に貨物事故防止の勉強会を開催しており、有効な積み込み方法が見い出せれば積極的に取り入れるようにしている。
- ・貨物事故発生時は、事故内容を集配トラックの運転手や積み込み担当者に周知するとともに、再発防止対策策定後に教育訓練を必ず行い、事故発生後1か月間は積み込み作業の巡回を定期的に行うようにしている。
- ・貨物事故を発生させる要因として、荷役作業時のティルト作業を懸念しているため、ティルト作業に影響されない積み付け方法を検討している。
- ・貨物事故が発生した貨物の次回輸送時や、新規貨物輸送時には、積み付け状況の写真を撮影するようにしている。
- ・コンテナの使用前にコンテナ内の清掃を行い、残置された小石などが原因で破損事故が発生しないようにしている。
- ・養生資材は定期的に確認し、損傷している場合は処分して新品に交換している。
- ・輸送障害時において、お客様への迅速な対応に取り組んでいる。
- ・コンテナの床面や内壁との接触に伴う汚損などの貨物事故を防止するため、引越業務で使用している資材も活用するようにしている。
- ・荷崩れなどの貨物事故や偏積載などを発生させないように、コンテナの積み込みに携わる作業者を対象にした教育を定期的に開催している。
- ・エアバッグやストレッチフィルム包装などについて、現場実態に即した効果的な養生方法を検討するようにしている。

(3) コンテナについて

- ・空コンテナ不足が生じないようにしてほしい。
- ・老朽化したコンテナの用途廃止を促進してほしい。経年コンテナの使用時に濡損事故となる事例が多い。濡損事故発生時、当該コンテナの調査を鉄道事業者を実施してもらっているが、同じコンテナでも調査箇所によって結果が異なることがあった。荷主企業の信頼低下を招く可能性があるため、全ての調査箇所が同じレベルで実施されるようにしてほしい。
- ・特定の食品や肥料の輸送で使用された到着コンテナが臭気感染しているため、配達後、発送貨物の集荷に使用できないことがある。臭気感染が発生しない素材を使用したコンテナを製作してほしい。
- ・付加価値の高い高機能コンテナの開発製作を期待している。

(4) その他

- ・発送したコンテナについて、中継駅から偏積載コンテナであるとの連絡を受け、積み直しなどの手配が生じた。その

際の費用負担について、鉄道事業者からは、利用運送事業者の積み付けに問題があるため、負担はできないという回答があった。発場面では、適切な積み付けをしているため、釈然としない結果である。利用運送事業者が責を負うべき貨物事故と、鉄道事業者が責を負うべき貨物事故の基準が不明確に感じるため、明確にしてほしい。

- ・養生資材の返送費用は多額であり、負担が大きい。以前、バラ積みからパレット積みへの変更を検討している荷主企業に対して、パレットの返送費も含めた見積りを行った結果、高額となったため、鉄道輸送を選択していただけなかったことがあった。鉄道事業者は、パレットや再利用可能な養生資材を貨物駅で賃貸できるような仕組みを構築してほしい。
- ・バンニング・デバンニングなどの作業ができる場所を貨物駅構内に確保してほしい。

2. まとめ

鉄道コンテナの輸送品質向上に向けた貨物事故防止対策に関する提案

(1) 養生資材・養生方法に関する情報の展開と共有化

今回のヒアリング調査のなかで、パレット積みの清涼飲料水輸送において段ボール製の厚板紙を養生資材として使用した結果、多発していた荷ズレや座屈破損などの貨物事故が大幅に減少し、非常に大きな効果が見られたという事例や、巻取紙輸送において中古の損傷エアバッグを再利用して貨物事故防止に取り組んでいる事例があったが、同様の積姿や製品における貨物事故の発生に苦慮している事業者は少なくないと考えられる。また、使用中の養生資材を継続的に見直し、試行錯誤のうえ、新たな素材の養生資材や適切な養生資材に辿り着いた事例が幾つか見られた。このような貨物事故が減少した事例における養生資材や養生方法などについての情報は、物流関係者間で展開し、共有化していく取り組みが必要である。その際、利用運送事業者だけでなく、荷主企業や鉄道貨物輸送に関する団体とも連携して進めていくことが重要である。

(2) 養生資材の共用化・共通化

養生資材の購入費や、エアバッグなどの繰り返し使用可能な養生資材を返送する際の費用は、荷主企業との共同負担や荷主企業が養生資材を供給している事例もあるが、ほとんどの事例では利用運送事業者が負担しており、コスト面で大きな負担となっている。養生資材に関する費用の負担を軽減する一つの方法として、利用運送事業者と鉄道事業者が共同で、繰り返しの使用が可能な養生資材を集約するスペースを設け、デポジット制度などの導入により養生資材の利用を促進する仕組みの構築が考えられる。適切に管理していくためのルール作りや事業採算性の検討など課題は多いが、荷主企業や利用運送事業者の負担が軽減される可能性があり、また、鉄道輸送の利用促進にもつながるものと考えられる。

(3) 新しい機能を備えたコンテナの開発

輸送品質向上委員会のサブテーマでは、2017~2019年度に「防振装置搭載鉄道コンテナの有効性調査」、2020年度で「防振装置搭載鉄道コンテナの実用化に向けた検証調査」を実施していることから、防振コンテナや防振資材の必要性についてヒアリング調査を行ったところ、輸送中の振動に起因すると考えられる荷擦れ事故や自動車部品・精密機械輸送に効果があると考えられるといった意見が多くあった。そのため、荷役作業中や列車走行中に生じる振動については、荷主企業や利用運送事業者の多くが懸念しており、振動を抑制する資材などに対するニーズは高いと考えられる。今後は、サブテーマにおける調査結果も参考に、防振資材だけではなく、防振機能を備えたコンテナの開発に向けた検討も必要と考えられる。また、防振機能だけでなく、臭気感染を懸念する意見もあったことから、臭気感染防止など付加価値の高い高機能コンテナの検討も望まれる。